

ゆめポケット

第17号 2013年3月15日

「食」の大切さを伝えたい
「おいしい!」が
わたしたちにくれるもの



あ〜ん!もぐもぐ...
おいしいね!



だいすきな
おともだちと
いっしょなら
うれしい!たのしい!
おいしい!



ほじたちのまやう!!
ん〜うまい!!!

社会福祉法人 米沢仏教興道会
興道北部保育園

米沢市塩井町塩野1476-1
TEL 21-5070 FAX 21-5128

(4)

育メン紹介

「我が子の笑顔は仙豆以上」 岡崎 丈昭さん (0歳児 結衣ちゃん之父)

「いない いないば〜」という行動をしている子どもの笑顔は、ドラゴンボールの仙豆以上に心と体を回復させてくれる。育メンの定義は、よくわかりませんが、年末年始の5日間、片時も離れず子どもの側にいた私は、やはり育メンに入るのだろうか?どんなに可愛い子どもでも、うち交換の時にうちがおしりについたまま、あちこち騒ぎ出した時はさすがに怒りたくもなってくる。しかしながら、不意に「いない いない ば〜」と口ずさみながら満面の笑みを返されると、ころっと感情が逆転してしまう。この笑顔を見る為に生きていくといっても過言ではないだろうか。反面、一体いつまでもこの笑顔してくれるのだろうかかと真剣に考えてしまう。

この先、成長していろいろな事を学び、そして忘れていこう。それでも「感謝する事」「感動する事」「感激する事」とこの笑顔だけは、いつまでも忘れないでいてほしい。



「楽しんで、前向きに」 雨田 祐二さん (年中児 真波さん 1歳児 淳平くん之父)



朝、一緒に寝ている二人を起こすと、寝ぼけ顔。着替えを促し朝ご飯。モリモリ食べる日もあるし、そうでない日も。「朝はお祭り」と余裕を持たせたいのですが、つい出勤時間を気にして困った顔をしてしまうことも。保育園に送り、真波の「お仕事がんばってね」の声に励まされます。きっと先生方がご指導して下さいたのだと思い、それに感謝。夕食の後、0歳児の奈桜から順に三人の子とお風呂。みんなニコニコしているとうれしくなります。淳平がさっさと寝室に向かうようになり、変化の中に成長を感じます。まだ一緒に寝たいと二人。両腕を決められて動けず私の体がこわばれることも笑い話です。子育ては父が主体的に...等と大きなことは言えず、妻や周りの方々全てに感謝しつつ五年目の親業に精進してまいります。

「父になろう」 鈴木 北斗さん (年長児 咲結さん之父)

最近よく「イクメン」という言葉を耳にします。「育児を楽しんで率先し行う男性」を指していて、それだけ育児にかかわる男性が増えてきたのではないのでしょうか。

現在、小5の長男と保育園年長の長女の子もがいます。妻が長男を妊娠している当時、まだ若いということもあり、これから父親になるという実感がなく、不安でいっぱいでしたが我が家は核家族なので、状況的に父親でも育児をしなければなりません。長男が生まれてからはおむつ交換授乳、そして入浴と何でもやっていたのですが、マニュアル通りにはいかない現実があり、当時は無我夢中で育児をしていたのを覚えています。

長男が生まれてから5年後に長女が誕生して、二人目ということもあり変な自信(?)が付き、かなり手抜き育児になりました。(笑)

育児というと「辛い」「大変」というイメージがありますが、実際育児にかかわってきて、子どもはふとした仕草から日々成長しているのが実感できます。その時が子育てで一番うれしく感じ、育児の苦勞も吹き飛びます。

これが育児の醍醐味ではないでしょうか。

「育児」は本当に楽しいものです。世の中の男性諸君は、是非積極的に育児に参加して父親の喜びを分かち合しましょう。



編集後記

子どもたちは、園舎南側にある「おひさま農園」で育てた新鮮な野菜を食することで、心も体も豊かに大きくなりました。雪が解けたら、こまつな、莖立ち菜、玉ねぎなどの青芽がたくさん出てくることでしょう。
「今年は、何を植えましょうか...」今から楽しみです。



0歳児

「はじめて出会う…おいしい」

赤ちゃんは、ぐっすり眠り、いっぱい遊び、空腹になると泣いて教えてくれます。母乳やミルクを飲み、生後6か月頃からは離乳食を食べ始めます。はじめて出会う「おいしい」にかわいらしい笑顔…

赤ちゃんは、安心できる大好きな人のかかわりの中でおいしさを覚えることができます。私たちは、はじめて出会う「おいしい」を大切にしています。



1歳児 「おいしい!これな〜んだ?」

子どもたちは、給食を食べながら、食材を指し、少しずつ食べ物に興味・関心が出てくるようになりました。クラスでは、食卓に出ているのは切られている食材なので、実際に野菜そのものを触りながら、形・色・手触りを感じる事ができるような体験をしています。

今では、「これな〜んだ!?!」という問いかけに「だいこん!」などと答えながら、おいしそうに食べています。



2歳児

「ももくみさんのおいしい!」

夏、ミニトマトときゅうりを育てました。小さかった苗がぐんぐん大きくなるのを見て興味も増し、積極的に水をやりたり「ここにあかちゃんときゅうりいるよ!」などと大喜び!いよいよ収穫の時、つやつやトマトを手にのせて跳め匂いをかいだり、きゅうりポツポツを感じながら「おいしい!」と笑顔ではおぼっていました。

給食に出るトマトやきゅうりも「ももくみさんのおいしい!」とすすんで食べるようになりました。



おいしい!も子どもたちと一緒に!豊かな「食生活」豊かな「育ち」

“食”という字は人を良くすると書きます。まさに「食」は豊かな人間性を育み、生きる力を身につけ、心身共に健やかな人を作ることはいうまでもありません。当園では、園長を始め、保育者、給食担当者、看護師などの全職員が協力しながら、子ども一人一人の育ちに合わせた食生活を豊かに支えていきたいと考え、様々な食育活動に取り組んでいます。

幼児組

「自分の手でもぎ取ったおいしさは格別!」

幼児組では、実りの秋、自分の手でりんごやぶどうを収穫する体験をしています。子どもたちの、たわわに実った果実をほおばる満面の笑顔を見ていると、自分の手でもぎ取った味は格別のように感じます。これからも自然体験を通して、おいしいを味わってほしいと思います。



「たべるのおはなし教室」

地域のスーパーマーケットを食育の場として「たべる」のおはなし教室に参加しました。

野菜を赤・黄・緑に分類したり、面白い物したり、様々な野菜クイズに挑戦したり…

「たべる」のおはなし教室を通して、苦手な野菜でも「たべてみようかな」という気持ちになったようです。

「親から子へ 子から孫へ 人から人へ おいしさをつなぐ」

わたしたちのまわりには、四季折々子どものすこやかな育ちを願う伝統行事があります。

親から子へ 子から孫へ 人から人へと日本文化を受け継ぎ、一緒に食べて祝うことを喜び、おいしいをつないでいければと思っています。

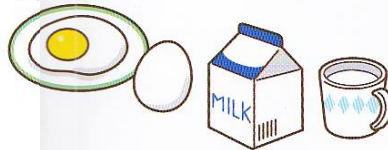
看護師より

「知っていますか? 保育園での除去食の対応策」

近年、卵・小麦を始め、様々な食物アレルギーをもったお子さんが増加傾向にあります。当園でも食物アレルギーを持っているお子さんは複数います。

決して起こしてはならない誤飲事故です。尊い命を守るために、専門医師からのアレルギー診断書・除去食指示書を用いた除去食の提供を行っています。

配膳では、トレイやプレートなどを色別に使い、十分な配慮のもと、食事をしています。



給食室より

「いろいろな味と出会わせてあげたい」

育てる喜びと共に自然の恵を頂く活動のひとつとして、野菜作りをしています。

給食では、きゅうり・プチトマト・大根・白菜など、子どもたちが一生懸命育てた野菜をできるだけ捨てずに新鮮なうちに…と料理に取り入れています。

採れた野菜は、味噌汁の具やサラダの色どり、煮物など大活躍し、子どもたちのお腹に入りました。

子どもたちの食に携わる私たちは、新鮮な野菜を活かして、子どもたちにいろいろな味と出会わせてあげたいと思いながら、おいしいを届けています。

